



新田 浩 先生

### 略歴

- 1986年 3月 東京医科歯科大学歯学部卒業  
1991年 3月 東京医科歯科大学大学院歯学研究科 博士課程修了  
1991年 4月 東京医科歯科大学歯学部歯科保存学第二講座助手  
(1994年 6月～1996年 3月 文部省在外研究員  
University of Texas Health Science Center at San Antonio)  
1995年 4月 日本歯周病学会専門医取得  
2000年 4月 東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科歯周病学分野助手  
2003年 4月 同研究科歯科医療行動科学分野准教授  
同大学歯学部附属病院 歯科臨床研修センター 副センター長  
2018年 4月～ 同院 歯科臨床研修センター センター長  
2019年 4月～ 同院 歯科総合診療部教授

## 電動歯ブラシと超音波スケーラーの望ましい使用法

東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科総合診療部／歯科臨床研修センター  
新田 浩

口腔内の健康を維持するためには、口腔内を清潔に保つことにより、歯科疾患の発症、治療後の再発、増悪防止を行うとともに、口腔機能を維持あるいは失った口腔機能を回復させるいわゆる口腔健康管理が必須です。口腔健康管理には口腔内の歯や粘膜、舌などのプラークや汚れをターゲットとする口腔衛生管理と摂食・嚥下障害などの口腔機能の低下を回復することをターゲットとする口腔機能管理があります。

口腔衛生管理には患者さん自身が行うセルフケアと歯科医師や歯科衛生士など専門家が行うプロフェッショナルケア（プロケア）があり、この両者がバランスよく行われることが大切です。患者さんのセルフケアのレベルはデンタルIQ、器用さ、口腔内状態、ライフステージ、生活習慣、全身状態等により千差万別です。したがって、プロケアはセルフケアのレベルや難易度に応じて、セルフケアでは足りない部分、対応出来ない部分を補って、セルフとプロのバランスを取りながら行います。すなわち同じプラークをターゲットとしたプロケアでも、う蝕、歯周病、矯正治療中、クラウン、義歯、インプラント等、それぞれの疾患・状態に応じた対応が求められます。

歯周治療でのプロケアは主にプラークをターゲットとし、メンテナンス・SPT（Supportive Periodontal Therapy or Treatment）で行われます。日本歯周病学会ではSPTを歯周基本治療、歯周外科処置、修復・補綴治療により、病状安定となった歯周組織を維持するための治療としています。SPTの内容としては、①医科的、歯科的既往歴の再評価、②口腔衛生状態と歯周組織の評価、③現症の説明と再指導、④必要な部位のスクレーピング・ルートプレーニング、⑤専門家による歯面清掃などがあげられます。これらの処置は、積極的治療が終了した時点から歯の寿命が尽きるまで、歯科医師および歯科衛生士によるプロケアとして、さまざまな間隔で継続的に行われます。

近年、セルフケア・プロケアにおいて、さまざまなエレクトリックデバイスが開発され、普及しています。セルフケアでは電動歯ブラシ、ウォーターピック等、プロケアでは超音波スケーラー、PMTTC用ハンドピース等があげられます。

これらのエレクトリックデバイスを活用するためには、その原理、特徴を正しく理解して使用することが大切です。さもないと、ケアではなく、逆に傷つけてしてしまうことにもなりかねません。本講演ではセルフケア・プロケアで広く使用されている電動歯ブラシと超音波スケーラーの原理・特徴を解説し、望ましい使用法についてお話しします。